

事務事業評価シート(総括表)

事務事業	116	みんなで考える身近な公園の整備					
章	3	安全で快適な、みどりのあるまち					
大項目	04	うるおいのあるみどりのまちづくり					
施策	02	公園、広場などの整備充実					
事業内容							
目的	地域住民にとって身近な公園を、より一層使いやすい公園にするため、子どもを含む地域の住民参加によって改修プラン作りを行い、再整備を図っていきます。						
対象・手段	主に住宅街の中にある小規模な既存公園(600㎡程度以下)のうち、施設の老朽化や立地状況から利用度が低下している公園を対象とします。計画から工事までの期間を2年間とし、地域との協働による改修プランの作成には十分な時間を確保します。10年間で5園の整備を行います。						
成果(事業が意図する成果)							
地域の人たちが協働して公園を整備することにより、公園に対する愛着が湧き、公園の利用が増加されます。							
事業成果指標							
指標名	定義	目標水準					
整備目標公園数に対する整備済公園数の割合	目標値5園に対する達成率	(平成19年度に)	(100%)の水準達成				
整備目標内容に対する整備済内容の割合	目標値5園に対する達成率(設計・施工別)設計10ポイント、施工10ポイントで換算	(平成19年度に)	(100%)の水準達成				
		()年度に	()の水準達成				
成果の達成状況							
	単位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備考	
事業成果指標	目標値1	%	60.00	60.00	60.00	80.00	
	実績1	%	40.00	60.00	60.00	100.00	
	= /	%	66.67	100.00	100.00	125.00	
	目標値2	%	60.00	70.00	80.00	90.00	
	実績2	%	50.00	60.00	70.00	110.00	
	= /	%	83.33	85.71	87.50	122.22	
	目標値3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成17年度	しんかいばし児童遊園 「しんかいばし児童遊園を考える会」の実施 区民との協働によるプランづくり						
平成18年度	しんかいばし児童遊園 実施設計及び整備工事 482㎡ 大久保北公園 設計ワークショップ実施+実施設計+整備工事 783㎡ 西早稲田児童遊園 設計ワークショップの実施 区民との協働によるプランづくり						

部名称		環境土木部		課名称		道とみどりの課	
		単 位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	188	5,269	27	27,459	
	人件費	千円	4,169	8,338	4,169	20,700	
	事務費	千円	0	0	0	0	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	4,357	13,607	4,196	48,159	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	4,357	13,607	4,196	48,159	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	4,357	13,607	4,196	40,159	まちづくり交付金
	特定財源		0	0	0	8,000	
	一般財源投入率 /	%	100.00	100.00	100.00	83.39	
職員	常勤職員	人	0.50	1.00	0.50	2.50	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
事業に関する検討課題							
<p>本事業の対象とする公園は、利用者の範囲が限られる小規模な公園であるため、協働を行う際の区民参加者は少ないのが現状です。多くの地域住民の参加を得られるには、参加意欲が増すような仕組みづくりが大切です。</p>							
評価基準に基づく評価と理由 「3.2.1」の3段階評価です。	達成度	3	当初実施計画どおり進め、追加対象公園の整備を完了したので、目標園数を達成しました。				
	効率性	3	住民と協働で改修計画案を作成することから、効率的な設計が可能になっています。				
	実施の成果	3	整備が完了した既実施公園については、整備後の利用が高まっています。 18年度完成した公園では「公園サポーターズ」が結成され、管理・運営面での協働も進んでいます。				
	行政の関与	2	公園管理者として、施設改修は当然の責務です。また、協働で公園を再整備する事業では、技術的な助言などのように行政が積極的に関与していく必要があります。				
	妥当性	2	計画・設計の段階から地域住民が参加することにより、公園への感心は着実に高まっています。				
	施策寄与度	3	この事業により、公園が明るくなり、利用者も増加傾向にあります。				
総合評価	<p>これまで、あまり利用されていなかった公園が、明るくきれいになったことによって、利用者が増えてきています。 計画・設計の段階から地域住民が参加することで、公園に対する関心がより高まっています。 18年度は、課題のひとつであった、工事完了後の維持管理の協働を実現できたことも収穫のひとつです。</p>						<p>A</p> <p>過年度評価</p> <p>17年度 A</p> <p>16年度 B</p> <p>15年度</p> <p>14年度</p>
	改革方針	<p>事業の推進に当たっては、幅広い年齢層の地域住民を取り込んで、多くの意見をいかに反映できるかがポイントになります。また、工事完了後も地域住民との協働で維持管理していくことが望ましく、その「仕組みづくり」を当初段階から念頭に入れ、管理・運営面での協働が実現できるような「プランづくり」を進める必要があります。また、今後は一般の公園改修にあたっては、できるだけ同様に進めていきたいと考えています。 さらに、現在、2年間に1箇所を整備する（1年目は設計まで、2年目は工事）という方法で事業を行っていますが、この進め方について今後も検討していきます。</p>					